

1. 調査報告概要表

作成日平成 21年 2月18日

【評価実施概要】

事業所番号	1091100014
法人名	有限会社 竹の里
事業所名	グループホーム 竹の里
所在地	群馬県安中市松井田町五料 2098-1 (電話)027-380-4353

評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町 2-29-5 コミューン100 1-B
訪問調査日	平成 21年 1月 14日

【情報提供票より】(20年 12月 23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 10月 1日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	12 人 常勤専任 3人 常勤兼務 1人 非常勤 8人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1階建ての 階 ~ 1階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000円	その他の経費(月額)	光熱水費 9,000円	
敷金	有()円	〇無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300円	昼食	300円
	夕食	300円	おやつ	0円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(12月 23日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	1名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低 75歳	最高 97歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松井田病院 須藤歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者個々の生活歴等を活かし、畑仕事(野菜作り、草取り)・編み物等の継続的な個別ケアへの対応が実践されており、役割や生き甲斐に繋げ日常的な生活が充実されている。周囲の自然環境を活用し、代表者がホーム窓越しの畑に四季折々の木(花の咲く)を植え、テラスでお茶を飲みながらの花見等、利用者と職員が自然な形で季節感を味わっている。職員の持っている趣味(パッチワーク・人形・装飾品づくり)等を活かし、利用者と共に作品をつくり、出来上がった作品を居室やホールに飾り、自作品を観る喜びや作品が増えて行く楽しみ等で安心した日常生活が送れる為の取り組みがなされている。
これらは評価に値するものであり、今後も継続されることを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>・地域密着型サービスとしての理念=「地域の環境美化に協力し、住民とコミュニケーションを…」と見直した。・重度化や終末期に向けた指針の共有=「重度化、終末期、特変時に向けた対応指針」を作成し家族に説明・同意を得ている。・入浴を楽しむことができる支援=曜日や時間帯の設定等前回と同様。・鍵をかけないケアの実践=開錠を心掛けてはいるが、日中は殆ど施錠している状態。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、職員に確認しながら管理者がまとめ記載したものを全職員が目を通し、取り組み内容等の確認を行った。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的(1回/2カ月)開催しており、介護保険法の説明を行ったり、意見や要望を聞く機会としている。家族より外泊時の無断外出等の対応について意見が出され、対応策の検討を行う等サービス向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議に家族が出席して意見・要望等を聞く機会としており、玄関には「意見箱」を設置している。又、管理者が苦情受付担当であり、面会時に意見等聞くよう心掛け、出された意見等は職員会議で検討し、運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会の加入はないが、地域の環境美化(2回/週ごみステーションの清掃)に参加したり、1回/月ボランティアによる映画会を開催し、地域の人と一緒に観覧する等、日常的に地域住民との交流が図られている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の環境美化に協力し住民とコミュニケーションをとり共に安心して暮らしていける施設を・・・」等々、地域密着型サービスを意識した独自の理念をつくり上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念が事務所及びホール内の見やすい場所に掲げられており、日常の業務の中で確認を行う等、理念を常に振り返りケアの実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の加入はないが、地域の環境美化(2回/週ごみステーションの清掃)に参加したり、1回/月ボランティアによる映画会(男はつらいよ・フラガール等)を開催し、地域の人や児童民生委員と共に鑑賞する等、地域住民との交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価については、結果を職員会議で確認し、具体的な改善策等の話し合いを行っている。自己評価は、職員に確認しながら管理者がまとめ記載したものを全職員が目を通し、取り組み内容等の確認を行った。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的(1回/2ヵ月)に開催しており、介護保険法の説明を行ったり意見や助言等を聞く機会としている。家族より外泊時の無断外出等の対応について意見が出され、意見交換や検討を行う等でサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が介護支援専門員を兼務していることから、市直営の地域包括支援センター職員と事例検討や情報交換を定期的に行う等、市担当者との連携が図られており、サービスの向上に取り組んでいる。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月利用料を届けてもらう際に生活振りを伝え、身体状況については随時電話で連絡を行なっている。又、1回/2ヶ月ホームだより「竹の里ホーム便り」を発行しており、職員が個別に利用者の様子を記載し、家族に送付する等定期的な報告が行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族が出席し、意見・要望等を聞く機会としており、玄関には「意見箱」を設置している。又、管理者が苦情受付担当であり、面会時に意見・要望等聞くよう心掛け、出された意見等は職員会議で検討し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当所からの職員が大半であり、職員の意向を聞き離職等最小限を心掛けている。又、異動の際は新任職員が慣れる迄引継ぎ(特に夜勤)を行い、利用者とのコミュニケーションを大切に接する等、ダメージへの配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県の認知症介護(基礎研修)・市主催(アートセラピー研修)等順番に受講し、受講者は職員会議で伝達、資料は談話室に置き職員が目を通す等で共有している。又、職員が自主的に研修に参加する等、育成への取り組みがなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、ブロック別で他のホームの管理者との意見交換及び職員交換研修に参加して行く等、情報交換を行いサービスの質の向上への取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人・家族等がホームを見学したり、管理者が自宅や病院に訪問し、面接及び情報を収集する等、相談し納得した上での利用となるよう心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴等から菜園での野菜づくり・伝統行事(屋敷祭り等)の方法を教えて頂き一緒に準備をしている。又、ボランティアによる映画会(1回/月)開催の際には機材の搬入、準備一切を担当のように手伝ってくれる等、日常的に支え合いの関係が構築されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	独自のアセスメント表を活用し、個別に希望や意向(やりたい事・行きたい所等)の聞き取りにより把握を行っている。又、意思表示が困難な人には日常の言動等の中から把握し、本人本位のケアを心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族から要望や意向確認を行い、お茶の時間や職員会議(1回/月)等で話し合い、介護計画の作成に活かしている。ご飯が上手に食べられない人に一口大のおにぎりには等、職員の意見・アイデアで上手に行ったケースもある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	随時職員からの聞き取りや記録等から状況確認を行い、状態等変化が生じた際は新たな介護計画を作成している。又、1回/月職員会議やカンファレンスを行い、定期的(1回/3ヵ月)に介護計画を見直し家族からの同意が得られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の体調不良時は家族に連絡し、職員が受診を行い結果報告する等の支援が行われている。又、本人の希望で家族に電話連絡をしたり、外食に出かける等、要望に応じた柔軟な支援が行なわれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用時にかかりつけ医の説明や希望を聞き、協力医による1回/月の往診や血液検査等が行なわれている。又、急変時・夜間は職員に看護師がおり、随時協力医の指示を仰ぐ等24時間対応が可能であり適切な医療が受けられる体制が図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期についての指針「重度化、終末期、特変時に向けた対応指針」があり、利用時に家族等へ伝え署名にて確認を交わしている。家族の面会時に職員・かかりつけ医等、関係者間で具体的に話し合い検討しているケースがある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を重視し、言葉遣いや接し方など常に心がけ、特に目線を合わせて話す等、職員で話し合い取り組んでいる。個人情報の保護については、記録物の持ち出し禁止等、入職時や日常的に気づいた際に伝えている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各自のペースを大切にレクリエーション時等は種類(かるた取り・パズル・歌等)を準備し、利用者の体調や気持ち等を尊重し、希望を聞いて無理のないよう自由に参加・過ごせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が畑で作った野菜をメニューに加え、野菜の皮むきや後片付け等、一連の動作を職員と一緒にこなしている。又、行事食を献立に取り入れたり、食事時は職員も同席し会話をする等、楽しく食事が出来るよう心掛けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	3回/週(月・水・金=13:30~15:00)を基本としており、希望により毎回入浴する人もいるとの事であるが、チェック表から1~2回/週入浴者が大半であった。拒否者が一人おり、再度声かけを行う等工夫しての入浴支援を実施している。	○	入浴拒否者への再度の声かけ等、工夫した取り組みがなされてはいるが、日常的にホームの都合で設定するのではなく、利用者一人ひとりの希望やタイミング等に合わせ、希望があれば毎日でも入浴が可能である等の取り組みを期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各自の生活歴等を把握し、野菜づくり・洗濯物たたみ等可能な限り継続出来るよう支援している。又、希望により個別の散歩やドライブを兼ねて外食(寿司・ラーメン・ファミリーレストラン)に出かける等、楽しみごとへの支援を心掛けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には運動を兼ねてホームの周辺を散歩したり、テラスでお茶を飲む等で外気浴を心掛けている。又、季節の花見や小旅行(春・秋)に家族と共にドライブを兼ねて出かける等の外出支援が行われており、気分転換が図られている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者が事務所にいられる時間帯は玄関を開錠しているが、無断外出をしてしまう人がいるために施錠していることが多い。今後、日中はなるべく開錠する方向で検討していきたい。	○	開錠への検討を考慮していきたいとの事。無断外出者のアセスメントを職員間で密に行い、行動習慣の把握や他者への施錠による弊害等を認識し、可能な限り施錠しなくても済む方向での実践を期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2回/年(昼・夜想定)消防署に依頼し、避難訓練及び消火訓練を実施している。又、心肺蘇生法(地域住民参加)や119番通報等の訓練も行っており、避難体制への取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は利用者の意向を取り入れ管理者が作成している。食事摂取量は個別に記録(チェック表)し、水分の採れ難い人には味を変えたりトロミを付ける等、水分摂取に配慮してはいるが摂取量の記録(チェック表)は行われていない。	○	食事摂取量は毎回確認・記録(チェック表)を行っているが、水分については摂取への工夫はなされているも、全員の記録(チェック表)が無いと、体調変化時等で食事・水分摂取量を一日を通して確認し、日常的な健康管理に繋げる事を期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内には季節感のある利用者と職員の共同作品を展示したり、季節の花が生けられている。又、ソファが設置してある等自由な居場所が確保されており、ガラス越しの採光・景色等心地よく過ごせるような工夫がなされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族等には、使い慣れた馴染みの物を持って来て頂くよう働きかけている。各居室には、サイドテーブル・テレビ・電気毛布等が持ち込まれたり、自作の人形や編み物等があり、安心して過ごせるような配慮がなされていた。		